

崇城大学 学部の教育目標

本学は、学部ごとに人材の養成に関する目的および教育研究上の目的を次の通り定める。

- (1) 工学部の目的は次のとおりとする。基盤工学と汎用科学技術により、高い倫理観に基づく豊かな人間性と本物の工学的素養をバランスよく身につけて、多様化した現代社会の高度な要請に工学視点から対応できる実践的問題解決型の人材を養成する。特に、国際的かつ地域社会に貢献できる優れた工学人材を養成する。
- (2) 芸術学部の目的は次のとおりとする。高い倫理観を有し、現代社会における芸術の役割を認識し、広範な活動領域で持続的な創作活動を行うことのできる人材、自ら将来の課題を探求し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことができる人材、文化創造へ積極的貢献を行うための創造性、独創性豊かな優れた人材を養成する。
- (3) 情報学部の目的は次のとおりとする。21世紀に益々増大すると予測される新しいIT産業技術を支える新しいタイプの人材を養成する。高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を持ち、工業社会からIT社会への転換に対応できる、地方にあっては、デジタルデバイドにも対処できる、しなやかな知識を有する人材を養成する。
- (4) 生物生命学部の目的は次のとおりとする。社会を支える科学技術の分野において、バイオテクノロジー、ライフサイエンスの役割は大きい。生物科学・生命科学の総合的な教育研究を通して、バイオテクノロジー・ライフサイエンスの基礎知識およびそれをニーズに合わせて応用する能力を持ち、高い倫理観を備えた人材を養成する。
- (5) 薬学部の目的は次のとおりとする。薬学の基礎学力と倫理観をしっかりと身につけて、問題解決能力や国際化・情報化への対応能力を育み、医療、保健、創薬など、いずれの方向に進んでも患者志向の薬の専門家として貢献できる高い資質と人間性豊かな薬剤師を養成する。特に医療現場で活躍できる実践能力の高い薬剤師を養成する。

学科の教育目標

【工学部】

(機械工学科)

機械工学の基礎と実践に重点をおいたモノ作り教育によって、工学的センスと技術者倫理観を身につけた機械エンジニアを養成する。

(ナノサイエンス学科)

化学を基礎として、「新素材」、「環境」、「バイオ」に関する学際的で高度な専門知識を教授するために、他学部と連携してナノサイエンスに特化した教育研究を行う。これにより、新産業の主軸となる複合的先端技術であるナノテクノロジーを担える幅広い専門知識と技術者倫理観を兼ね備えた人材を育成する。

(建築学科)

建築の分野は、建築物の創造及びその生涯において、人間、都市あるいは地域と深く係わり合うとともに、自然環境との調和・共存や資源の有効利用などへの配慮も幅広く求められる。このことを前提に、建築を志す者に対して、建築に係わる知識とその技術体系に基づく思考力、判断力、実践力並びに倫理観を身につけさせ、社会に有用な人材を養成する。

(宇宙航空システム工学科)

航空宇宙分野に関する技術を「基礎重点・実学重視」とする工学の観点から修得した人材を育成する。すなわち、技術者倫理に基づいて、航空宇宙分野の研究開発や安全運航を真摯に追求し航空宇宙産業の発展に寄与できる、研究者・技術者・航空従事者等を養成する。

【芸術学部】

(美術学科)

現代の社会において知性と感性の統合を取戻し、感性豊かな人間性を高める事を目的とし、森羅万象どういふ風な仕組みでいろいろなものが存在しているのか、どんな現象が現れているかなどを動・植物、地球全体を含め、モノとしての観察を基本とし美術を感覚的にとらえる感性を教育に活かし、その追求に情熱をもった表現力豊かな人材育成を目標とする。

(デザイン学科)

社会に組み込まれた個を自覚し、問題解決へ奉仕する職能に相応した技を研鑽する人を育てることを使命とし、急速に変化する情報化社会にあつて問題点を多次的に捉え、地球的規模の情勢を見据えて地域性を意識したコンテンツ制作を通して、科学と芸術の融合を踏まえた世界に発信できる情報をデザインするプロセスを学ぶことを目的とする。

【情報学部】

(情報学科)

最先端の情報技術の研究・教育と同時に、情報弱者の利用を念頭において、ヒューマンインタフェースに優れたシステム・ソフトウェアの開発技術者、情報機器・情報システムの開発技術者、高齢者の身体的なサポートをも視野に入れたロボット技術者などの人材育成を目的とする。

【生物生命学部】

(応用微生物工学科)

21世紀に発展が著しいバイオテクノロジーを中核とし、地球環境・人間の健康を守る技術者、研究者の養成を行う。微生物を主な対象とするが、動植物も含めそれらの機能を最大限に利用した物質生産・応用技術に取り組み、論理的および倫理的な視点を持って生物工学の専門知識を身につける。

(応用生命科学科)

応用生命科学科は、分子生物学、遺伝子科学を含めた生命情報科学を基盤とし、医薬学と工学の学際領域である医用生体工学、細胞培養技術のフロンティアを指向する細胞工学、さらに人間と自然との共生を目指す生命環境科学を中心とするニューバイオロジーを応用領域とし、教育研究にあたる。これによって、持続可能な人類社会の構築に貢献できる人材の育成を目指す。

【薬学部】

(薬学科)

薬学の基礎学力と倫理観をしっかりと身につけて、問題解決能力や国際化・情報化への対応能力を育み、患者志向の薬の専門家として医療現場において貢献できる高い資質と人間性豊かな薬剤師を養成する。